

【別添1】

整備計画書

代表事業者 (設備所有者・目標保有者) ※1	法人	法人名	××リース株式会社			
		法人所在地	〒110-..... 東京都千代田区...			
		主な業務内容	リース・クレジット業			
	事業実施責任者	部署	東京支店			
		役職	支店長			
		氏名	×× 一郎			
	経理責任者	部署	経理部			
		役職	部長			
		氏名	×× 二郎			
	代表事業者の事務連絡先 ※2	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 代表事業者 <input type="checkbox"/> 事務代行者			
		法人名	××リース株式会社			
		部署	経理部			
		役職	経理係長			
氏名		×× 三郎				
勤務先住所		〒110-..... 東京都千代田区...				
電話番号		03-1234-xxxx				
E-mail	saburo@xxx.co.jp					
共同事業者 (目標保有者) ※3	法人	事業実施責任者				
		法人名	氏名	所属部署・役職	電話番号	E-mail
		△△ホテル株式会社	〇〇 四郎	代表取締役	03-5978-xxxx	shiro@ooo.co.jp
	共同事業者の事務連絡先※4	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 共同事業者 <input type="checkbox"/> 事務代行者			
		法人名	△△ホテル株式会社			
		部署	ホテル〇〇〇			
		役職	支配人			
		氏名	〇〇 五郎			
勤務先住所	〒160-..... 東京都新宿区...					
電話番号	03-4321-〇〇〇〇					
E-mail	goro@ooo.co.jp					
削減協力者※5	法人名					
補助事業の概要	事業の実施場所 ※6	事業場・工場名	ホテル〇〇〇			
		事業場・工場住所	〒120-..... 東京都足立区...			
	事業実施場所の主な業務内容	宿泊業				
	参加形態	<input checked="" type="checkbox"/> 単独参加 <input type="checkbox"/> グループ参加				
事業形態※7	<input checked="" type="checkbox"/> 事業場 <input type="checkbox"/> 工場					

事業実施責任者は、当該法人等の決裁者であれば、事業場もしくは事業所の代表者等であっても問題はない。
(本事業への参加に関して、全ての責任を負いますので、その点をご理解した上で設定をお願いします。)
尚、事業実施責任者は「様式1応募申請書」の代表者と同一とすること。

注 記載にあたっては、「ASSET 実施ルール」を参照すること。また、記入欄が少ない場合は、本様式を引き伸ばして使用すること。

- ※1 代表事業者は、補助対象の設備を保有し、補助金の交付を受ける法人とする。
- ※2 代表事業者の事務連絡先は、代表事業者、あるいは代表事業者からの委任を受けた第三者である事務代行者の窓口となる担当者情報について記載する。
- ※3 テナント、工場内で事業を行う者が代表事業者(目標保有者)として参加する場合には、当該建物や工場の所有者が共同事業者(目標保有者)として参加しているかどうか確認すること。
- ※4 共同事業者の事務連絡先は、共同事業者のいずれかの法人、あるいは代表事業者及び共同事業者からの委任を受けた第三者である事務代行者の窓口となる担当者情報について記載する。
- ※5 削減協力者は、代表事業者及び共同事業者以外に、削減事業に協力する法人(テナント、工場内で事業を行う者等)とする。(任意)
テナント、工場内で事業を行う者等が目標保有者として参加する場合、本様式においては共同事業者として記載する。
- ※6 グループ参加の場合、事業の実施場所は「〇〇ビルおよび〇〇ビル」のように参加事業場名または工場名をすべて列記する。
住所は代表的な事業所を記載する。
- ※7 事業場と工場両方が含まれる場合には、より排出量多い方選択する。

事業名		高効率パッケージエアコン導入によるCO2削減事業			
事業期間		交付決定の日～平成29年2月28日			
基準年度CO2排出量 ※1, 2		1,000	1,050	950	1,000
		tCO2(平成25年度)	tCO2(平成26年度)	tCO2(平成27年度)	tCO2(基準年度排出量)
削減効果	削減目標量 ※3	平成29年度の年間CO2排出削減目標量			
		145	+	5	= 150
		設備導入によるCO2 排出削減目標量 <t-CO2>-①		設備導入以外の排出削減 取組によるCO2排出削減目 標量 <t-CO2>-②	<t-CO2>
補助の費用効率性	補助金申請額	12,693	千円-③	補助対象事業費	38,080 千円
	$12,693 \div \left(\frac{145}{\text{千円}} + \frac{5}{\text{千円}} \right) \times 13.20 = 6,410$				
	補助金申請額 <千円>-③	設備導入によるCO2 排出削減目標量 <t-CO2>-①	設備導入以外の排出削減 取組によるCO2排出削減目 標量 <t-CO2>-②	導入する設備の 法定耐用年数 <年間>	<円/t-CO2>
環境省指定先進的 高効率機器 導入比率	$18,000 / 31,000 \times 100 = 58.1$				
	環境省指定先進的 高効率機器の材料費 合計<千円>	環境省指定先進的 高効率機器等の材 料費合計<千円>	<%>		

注 記入欄が少ない場合は、本様式を引き伸ばして使用すること。

※1 基準年度排出量の算定については、「ASSET 実施ルール」を参照すること。

※2 基準年度は平成25年度～平成27年度の3年間平均を原則とするが、固有の事情により例外を認めることもあり得る。

※3 排出削減目標量の算定については、「ASSET 実施ルール」を参照すること。

なお、対象となる事業場・工場等における補助対象設備以外による排出削減の見込量を含めることも可とするが、この計画書に記載の排出削減目標量の数値自体は、本計画書の提出以降変更することができない。

※4 数値は小数点以下切り捨てて記入すること。ただし、設備の法定耐用年数を除く。

導入する設備一覧

補助対象設備	区分	設備名 ※2、※3	商品名
補助対象設備	「環境省指定先進的 高効率機器一覧」に定め る設備 ※1	高効率パッケージエアコン①	高効率エアコン ABシリーズ
		高効率パッケージエアコン②	XYエアコン
	「環境省指定先進的 高効率機器一覧」に定め る設備以外の設備	高効率照明①	
		高効率照明②	
		高効率高温水ヒートポンプ	
補助対象外の設備		パッケージエアコン	

注 記入欄が少ない場合は、適宜欄を増やして使用すること。

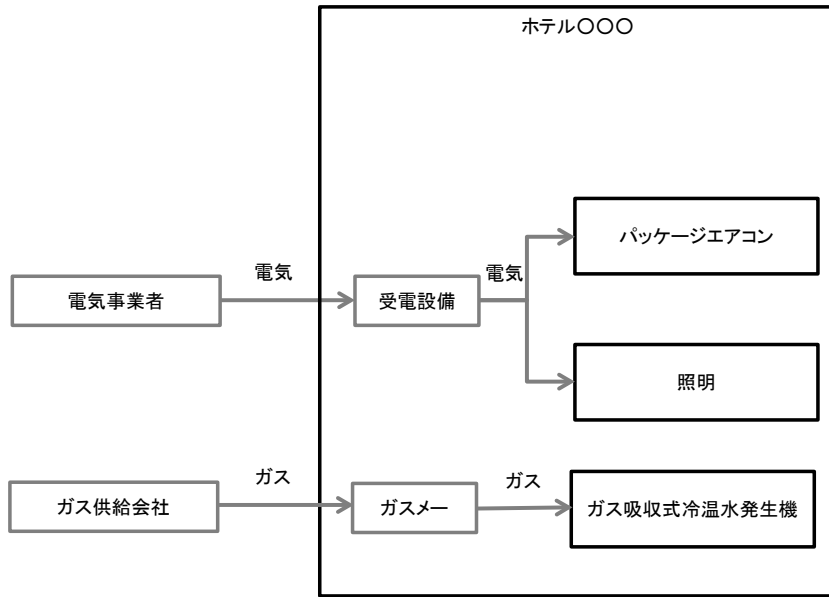
※1 「環境省指定先進的の高効率機器一覧」に定める設備のみ、商品名まで記載すること。

※2 ここで記載する設備名は、全ての別添・別紙において同一のものとすること。

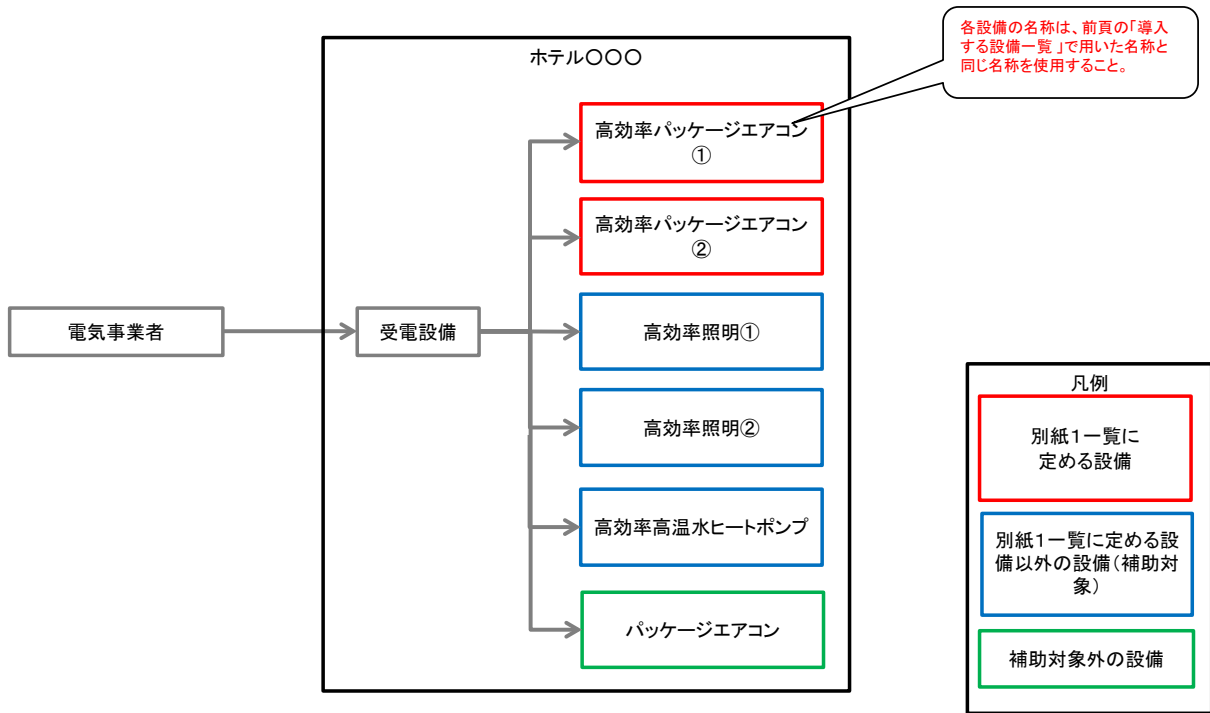
※3 一つの商品名に一つの設備名を対応させてください。

導入前後の比較図

導入前



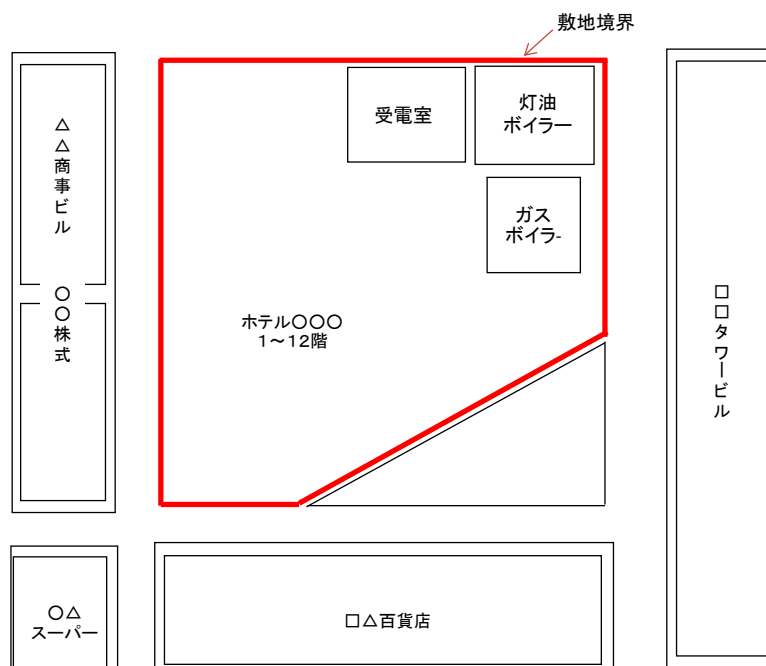
導入後



注: CO2排出抑制設備の導入前後の比較ができるように、概略図を作成すること。

CO2排出量算定の敷地境界

敷地境界



敷地内における主な化石燃料燃焼設備(ボイラー等)、他社から供給を受けた電力・熱を使用する主な設備(※主な設備を箇条書きで記載)

1. 受電設備: 受電室(1)
2. 化石燃料設備: 灯油ボイラー、ガスボイラー

テナント、工場内で事業を行う者が代表事業者(目標保有者)として参加する場合には、当該建物や工場の所有者が共同事業者(目標保有者)として参加しているかどうか確認すること。

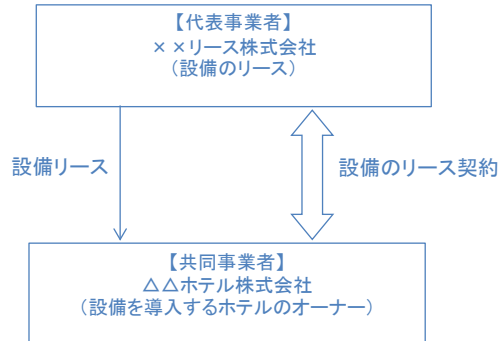
「ASSET実施ルール」に沿った敷地境界となっていることを確認した場合には、右の□に✓する。

ASSET実施ルールに沿った敷地境界である。

注: 敷地境界については「ASSET実施ルール」を参照のこと。

(複数事業者による共同申請の場合)各事業者の役割分担について

代表事業者及び共同事業者につき、各々の担当業務及び関係について図等を用いて記述のこと。



その他特記事項

【別添1別紙1】

グループ参加者の場合、参加事業場・工場の一覧(様式自由)をここに貼付。
別添4-2の「1-2.事業場・工場リスト」を使用することも可。

他の補助事業の利用状況等について

年度	補助事業名	補助率	対象設備名	対象設備の平成29年度CO2削減目標量 (基準年度比)
平成28年度	〇〇省〇〇補助金	1/3	パッケージエアコン (申請中)	10t-CO2
平成27年度	〇〇センター補助金	1/3	高効率給湯器	4t-CO2

- ※1 基準年度以降に取得した、もしくは取得予定(申請予定を含む)の補助金等につき漏れなく記載すること。
- ※2 詳細の分かる資料を添付すること。
- ※3 記入欄が足りない場合は、適宜行を追加等して記載。

法定耐用年数の根拠について

1.設備の法定耐用年数の根拠について

No.	設備名称	新規導入もしくは 既存設備改修の別	耐用年数省令(※1)別表上の項目名	新規導入の場合 の耐用年数	既存設備改修の場合 の既存設備の 耐用残余年数
1	高効率パッケージエアコン①	新規導入	別表第一の「建物附属設備」「冷房、暖房、通風又はボイラー設備」「冷暖房設備(冷凍機の出力が二十二キロワット以下のもの)」	13年	
2	高効率パッケージエアコン②	新規導入	別表第一の「建物附属設備」「冷房、暖房、通風又はボイラー設備」「冷暖房設備(冷凍機の出力が二十二キロワット以下のもの)」	13年	
3	高効率照明①	新規導入	別表第一の「建物附属設備」「電気設備(照明設備を含む。)」 「その他のもの」	15年	
4	高効率照明②	新規導入	別表第一の「建物附属設備」「電気設備(照明設備を含む。)」 「その他のもの」	15年	
5	高効率高温水ヒートポンプ	新規導入	別表第二の「機械及び装置」「宿泊用設備」	10年	
6					
7					
8					
9					
10					

別表第二の業種に該当しない場合(学校、病院、老人ホーム、他)は、別表第一の該当する耐用年数を選択する。

2.既存設備について、法定耐用年数の算出根拠

3.設備が複数に渡る場合、申請時に採用する法定耐用年数とその根拠(単純平均もしくは加重平均)

(13+13+15+15+10)÷5=13.2年(単純平均による)

※1 「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」(昭和四十年三月三十一日大蔵省令第十五号、最終改正:平成二〇年四月三〇日財務省令第三二号)
 ※2 記入欄が足りない場合は、適宜行を追加等して記載。

補助対象として導入される先進技術による設備について

記入欄
自動入力欄
リストから選択する欄

※エクセルソフトにおいて「数式」→「計算方法設定」の設定が「自動」となっていることを確認し、「手動」設定の場合「自動」に変更すること

- ※ 導入する設備の左欄に○を入力し、右の空欄に機器の情報を記載すること。
- ※ 基準適合の確認資料の例としては、仕様書、カタログ等がある。ただし、仕様書以外の資料を用いる場合には最下部の注にも記載すること。また、確認に用いた資料は申請時に添付すること。
- ※ 導入機器の効率については、環境省指定先進的高効率機器一覧に記載された基準に基づく効率を記入すること。
- ※ 各機器において電源周波数50Hz及び60Hzにより効率が異なる場合で、一覧に特段の指定が無い場合は、いずれかが基準となる水準を満たしていれば対象機器となる。
- ※ 冷温同時取出しを行うヒートポンプ等については、(冷却能力+加熱能力)/消費電力で求められる効率が、該当する機器区分の基準値を満たしている場合には対象となる。
- ※ 環境省指定先進的高効率機器一覧に記載された有効数字によってBAT水準を満たすものか判断することとする(例:出力1000kWを下回る温水ボイラの水準値は105%であるが、JIS B 8222 陸用ボイラ—熱勘定方式におけるボイラ効率の算定方式の入出熱法に準じて算出されたボイラ効率が104.5%である機器は、四捨五入すると105%となるため、基準を満たす)。

(1) ガスエンジンヒートポンプ	
メーカー名	
商品名	
型式番号	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)	ドロップリストから選択
JIS B 8627:2015で効率が測定された機器の場合	
仕様/相当馬力数	
基準値	APF _p =
導入機器の効率	APF _p =
仕様/相当馬力数	
基準値	COP _p =
導入機器の効率	COP _p =
JIS B 8627:2006で効率が測定された機器の場合	
基準値	
導入機器の効率	自動入力されます
(2) 店舗・オフィス用エアコン	
メーカー名	●●株式会社
商品名	高効率エアコン ABシリーズ
型式番号	123-AB
冷房能力	4.0kW < 冷房能力 ≤ 5.0kW
基準値	APF= 6.6
導入機器の効率	APF= 6.7
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)	カタログP10-11
(2) 店舗・オフィス用エアコン	
メーカー名	●●株式会社
商品名	XYエアコン
型式番号	XY555
冷房能力	6.3kW < 冷房能力 ≤ 11.2kW
基準値	APF= 6.5
導入機器の効率	APF= 6.6
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)	カタログP6-10
(3) 設備用エアコン	
メーカー名	
商品名	
型式番号	
冷房能力	
基準値	APF=
導入機器の効率	APF=
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)	
(4) ビル用マルチエアコン	
メーカー名	
商品名	
型式番号	
冷房能力	
基準値	APF=
導入機器の効率	APF=
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)	

「高位発熱量基準 寒冷地仕様」を選択した場合は記入不要です。(グレー表示になります)

「高位発熱量基準 寒冷地仕様」を選択した場合は記入不要です。(グレー表示になります)

(5) 吸収式冷温水機、吸収式冷凍機		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
冷房能力		
基準値	COP(高位発熱量基準)=	自動入力されます
導入機器の効率	COP(高位発熱量基準)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(6) 温水ボイラ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
出力		
基準値	ボイラ効率(低位発熱量基準)=	自動入力されます
導入機器の効率	ボイラ効率(低位発熱量基準)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(7) 蒸気ボイラ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
蒸発量		
基準値	ボイラ効率(低位発熱量基準)=	自動入力されます
導入機器の効率	ボイラ効率(低位発熱量基準)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(8) 潜熱回収型給湯器		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値	モード熱効率(高位発熱量基準)=	0.95
導入機器の効率	モード熱効率(高位発熱量基準)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(9) 空気冷媒方式冷凍機		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	0.4
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(10) 冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
-20℃<保管温度帯≤10℃の場合		
冷凍能力		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
-40℃<保管温度帯≤-20℃の場合		
冷凍能力		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	

該当する箇所に記入

(11) 空冷ヒートポンプチラー		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
標準仕様 冷水出入口温度差5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
標準仕様 冷水出入口温度差7°Cの場合		
基準値	COP=	3.41
導入機器の効率	COP=	
寒冷地仕様の場合		
仕様		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
ブライン仕様 ブライン入口3°C、出口0°Cの場合		
基準値	COP=	2.33
導入機器の効率	COP=	
ブライン仕様 ブライン入口0°C、出口-5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
ブライン仕様 ブライン入口-2°C、出口-5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
ブライン仕様 散水式 ブライン入口0°C、出口-5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
冷房専用 冷水出入口温度差5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
冷房専用 冷水出入口温度差7°Cの場合		
基準値	COP=	3.41
導入機器の効率	COP=	
冷房専用 散水式 冷水出入口温度差5°Cの場合		
基準値	COP=	4.60
導入機器の効率	COP=	
冷房専用 散水式 冷水出入口温度差7°Cの場合		
基準値	COP=	4.80
導入機器の効率	COP=	
冷房専用・ブライン仕様 ブライン入口-2°C、出口-5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
散水式(その他)の場合		
仕様		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
(12) 水冷ヒートポンプチラー		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
冷水出入口温度差5°Cの場合		
冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	
ブライン仕様の場合		
ブライン入口、出口/冷却能力		
基準値	COP=	自動入力されます
導入機器の効率	COP=	

該当する箇所に記入

「ブライン入口3°C、出口0°C」を選択した場合は記入不要です。(グレー表示になります)

該当する箇所に記入

(13)ターボ冷凍機		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
冷凍能力		
基準値		自動入力されます
導入機器の効率	自動入力されます	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(14)ヒートポンプ給湯器		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
標準仕様の場合		
加熱能力		
基準値	罰標準貯湯加熱エネルギー消費効率=	自動入力されます
導入機器の効率	罰標準貯湯加熱エネルギー消費効率=	
寒冷地仕様の場合		
加熱能力		
基準値	罰標準貯湯加熱エネルギー消費効率=	自動入力されます
導入機器の効率	罰標準貯湯加熱エネルギー消費効率=	
(15)高温水ヒートポンプ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
熱源: 空気の場合		
温水出口温度、熱源媒体入口温度		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
熱源: 水の場合		
温水出口温度、熱源媒体入口温度		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
熱源: 水空気の場合		
温水出口温度、熱源媒体入口温度		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
(16)熱風ヒートポンプ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	3.44
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(17)蒸気発生ヒートポンプ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度		
基準値	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	自動入力されます
導入機器の効率	(定格加熱能力 / 定格消費エネルギー)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(18)蒸気再圧縮装置		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度		
基準値	(システム消費電力量/吐出蒸気量)=	自動入力されます
導入機器の効率	(システム消費電力量/吐出蒸気量)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(19)誘導モータ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
容量		
基準値	(機械出力/入力電力)=	自動入力されます
導入機器の効率	(機械出力/入力電力)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		

該当する箇所に記入

該当する箇所に記入

(20) 永久磁石同期モータ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
容量		
基準値	(機械出力/入力電力)=	自動入力されます
導入機器の効率	(機械出力/入力電力)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(21) 変圧器		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
【油入変圧器、単相】の場合		
電源周波数(50Hz/60Hz)		
容量		
基準値	全損失=	自動入力されます
導入機器の効率	全損失=	
【油入変圧器、三相】の場合		
電源周波数(50Hz/60Hz)		
容量		
基準値	全損失=	自動入力されます
導入機器の効率	全損失=	
【モールド変圧器、単相】の場合		
電源周波数(50Hz/60Hz)		
容量		
基準値	全損失=	自動入力されます
導入機器の効率	全損失=	
【モールド変圧器、三相】の場合		
電源周波数(50Hz/60Hz)		
容量		
基準値	全損失=	自動入力されます
導入機器の効率	全損失=	
(22) コージェネレーション		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値		自動入力されます
導入機器の効率	自動入力されます	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(23) LEDベースライト照明器具(ストレート)		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値	(光出力/入力電力)=	180.0(lm/W)
導入機器の効率	(光出力/入力電力)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(24) LEDベースライト照明器具(32形/45形蛍光灯スクエアタイプ)		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準値	(光出力/入力電力)=	自動入力されます
導入機器の効率	(光出力/入力電力)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
(25) 電子計算機(サーバ型)		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
区分		
基準値	(消費電力/複合理論性能)=	自動入力されます
導入機器の効率	(消費電力/複合理論性能)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		

該当する箇所に記入

(26)業務用冷凍冷蔵庫		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		
【縦型冷蔵庫】の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【横型冷蔵庫】の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【縦型冷凍冷蔵庫】(冷凍庫1室)の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【縦型冷凍冷蔵庫】(冷凍庫2室)の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【横型冷凍冷蔵庫】の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【縦型冷凍庫】の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
【横型冷凍庫】の場合		
容量		
基準値	エネルギー消費効率(kWh/年)=	自動入力されます
導入機器の効率	エネルギー消費効率(kWh/年)=	
(27)工業用バーナ		
メーカー名		
商品名		
型式番号		
炉の種類		
基準値	(排ガス量/燃焼排ガス量)=	自動入力されます
導入機器の効率	(排ガス量/燃焼排ガス量)=	
基準適合確認に使用した資料および記載箇所(頁数等)		

該当する箇所に記入

※導入機器の効率の算定方法について、記載すること。

JISB8616:2015によってAPFが算定されている。

※ 導入機器の仕様書で確認が困難な場合には、以下の要件を満たす仕様書以外の確認資料を用いること。

確認資料の種類	要件
見積書、確認書等	・基準を満たす上で必要な該当要件(導入機器の効率やその測定方法等)について記載されていること ・基準適合を確認した者の押印があること
カタログ	・基準を満たす上で必要な該当要件(導入機器の効率やその測定方法等)について記載されていること

(注)カタログを使用した場合には、必ず以下の内容を確認のうえ左欄に○をすること。

<input type="radio"/>	基準を満たす上で必要な該当要件(導入機器の効率やその測定方法等)が、カタログ掲載機器と実際の導入機器とで相違ないことが記載されており、基準適合を確認した者の押印のある資料(見積書、確認書等)が添付されていること
-----------------------	---

【別添2】

経費内訳

所要経費	(1) 総事業費	(2) 寄付金その他の収入	(3) 差引額 (1) - (2)	(4) 補助対象経費 支出額
	41,000,000 円	0 円	41,000,000 円	38,080,000 円
所要経費	(5) 基準額 <small>公募申請時は記入しないこと</small>	(6) 選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7) 国庫補助基本額 (3)と(6)を比較して少ない方の額	(8) 補助金所要額 (7) × 1 / 3
	円	38,080,000 円	38,080,000 円	12,693,000 円

補助対象経費支出額内訳

経費区分・費目	金額	積算内訳	資料番号
工事費			
本工事費	36,430,000	材料費 31,000,000 10,000,000 高効率パッケージエアコン①(※) 8,000,000 高効率パッケージエアコン②(※) 3,000,000 高効率照明① 600,000 高効率照明② 9,400,000 高効率高温水ヒートポンプ 労務費 3,900,000 3,900,000 高効率パッケージエアコン①、②(※) 高効率照明①、② 高効率高温水ヒートポンプ 共通仮設費 1,530,000 1,530,000 高効率パッケージエアコン①、②(※) 高効率照明①、② 高効率高温水ヒートポンプ	見積書を添付する場合は、見積書に記載された番号を記入し、本経費内訳とのリンクを図る。 公募申請時は、見積書は必須ではなく、見積書が無い場合は記入不要。 環境省指定先進的高効率機器は、その合計は「別添1」の環境省指定先進的高効率機器導入比率の算出に使用する。 尚、環境省指定先進的高効率機器には、稼働に不可欠な直属および付属の機器(直属配管・計器・弁類、付属のポンプ・タンク類)を含むものとする。
測量及び試験費	1,650,000	200,000 高効率パッケージエアコン①(※) 300,000 高効率パッケージエアコン②(※) 150,000 高効率照明① 100,000 高効率照明② 900,000 高効率高温水ヒートポンプ (※) 環境省指定先進的高効率機器	材料費のみではなく、労務費、共通仮設費等も按分して加えた額とする。
合計	38,080,000 円		

購入予定の主な財産の内訳(一品、一組又は一式の価格が50万円以上のもの)

名称	仕様	数量	単価	金額	購入予定時期
高効率パッケージエアコン①(※)	冷房能力6.1kw、 暖房能力6.6kw	1式	11,843,650	11,843,650	平成28年11月
高効率パッケージエアコン②(※)	冷房能力7.2kw、 暖房能力7.8kw	1式	9,613,500	9,613,500	平成28年11月
高効率照明①、②		1式	4,442,850	4,442,850	平成28年11月
高効率高温水ヒートポンプ	加熱能力83.7kW 冷却能力62.4kW	1式	12,180,000	12,180,000	平成28年11月

注1 公募申請時は、「(5)基準額」は記入不要で、「(6)選定額」には「(4)補助対象経費支出額」を記入する。
 注2 交付申請時は、「(5)基準額」には「交付に係わる内示書」に記載された「国庫補助基準額」を記入する。

環境省指定先進的高効率機器一覧に掲げる機器の材料費の考え方①

経費内訳

所要経費	(1) 総事業費	(2) 寄付金その他の収入	(3) 差引額 (1) - (2)	(4) 補助対象経費 支出額	
	円	円	円	円	
所要経費	(5) 基準額 <small>公募申請時は記入不要</small>	(6) 選定額 (4)と(5)を比較して 少ない方の額	(7) 国庫補助基本額 (3)と(6)を比較して 少ない方の額	(8) 補助金所要額 (7) × 1 / 3	
	円	円	円	円	
補助対象経費支出額内訳					
経費区分・費目	金額	積算内訳		資料番号	
工事費 本工事費	21,600,000	材料費 21,600,000 10,000,000 高効率パッケージエアコン① 8,000,000 高効率パッケージエアコン② 2,500,000 高効率照明① 500,000 高効率照明②(※) } 600,000 高効率照明①、②ケーブル等の工事材料費			
環境省指定先進的高効率機器が高効率照明②の場合 環境省指定先進的高効率機器一覧に掲げる機器の材料費合計は、500,000円となる					
(※) 環境省指定先進的高効率機器					
合計	円				
購入予定の主な財産の内訳(一品、一組又は一式の価格が50万円以上のもの)					
名称	仕様	数量	単価	金額	購入予定時期

高効率対象がLED等の機器の場合は、範囲は当該LED機器(器具)のみとし、この場合は、付帯的なケーブル等の工事材料は不台とする。

注1 公募申請時は、「(5)基準額」は記入不要で、「(6)選定額」には「(4)補助対象経費支出額」を記入する。
 注2 交付申請時は、「(5)基準額」には「交付に係わる内示書」に記載された「国庫補助基準額」を記入する。

経費内訳

所要経費	(1) 総事業費	(2) 寄付金その他の収入	(3) 差引額 (1) - (2)	(4) 補助対象経費 支出額
	円	円	円	円
所要経費	(5) 基準額 <small>公募申請時は記入不要</small>	(6) 選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7) 国庫補助基本額 (3)と(6)を比較して少ない方の額	(8) 補助金所要額 (7) × 1 / 3
	円	円	円	円

補助対象経費支出額内訳

経費区分・費目	金額	積算内訳	資料番号
工事費			
本工事費	56,000,000	材料費 56,000,000 (1) 高効率ボイラ (※) 7,000,000 高効率小型貫流ボイラ 3,500,000 自動軟水器 5,500,000 その他機器 (2) LNGサテライト 40,000,000 30,000,000 LNG貯槽 10,000,000 配管、その他機器	
		付帯的な設備(例、蒸気ボイラの燃料転換に伴うLNGサテライト等)或いは、設備機器間の配管・ケーブル類は不含(範囲外)とする。 但し、ボイラの稼働に不可欠な直属および付属の機器は含まれる。	
		環境省指定先進的高効率機器が高効率ボイラの場合 環境省指定先進的高効率備機器一覧に掲げる機器の材料費合計は、16,000,000円となる	
		(※) 環境省指定先進的高効率機器	
合計	円		

購入予定の主な財産の内訳(一品、一組又は一式の価格が50万円以上のもの)

名称	仕様	数量	単価	金額	購入予定時期

注1 公募申請時は、「(5)基準額」は記入不要で、「(6)選定額」には「(4)補助対象経費支出額」を記入する。
 注2 交付申請時は、「(5)基準額」には「交付に係わる内示書」に記載された「国庫補助基準額」を記入する。

【別添3】

平成29年度の年間CO2排出削減目標量の内訳

①	平成29年度のCO2排出削減目標量	150 (t-CO2/年)
---	-------------------	---------------

||

②	設備導入による平成29年度CO2排出削減目標量		145 (t-CO2/年)
	内訳	環境省指定先進的高効率機器一覧に定める補助対象設備	106 (t-CO2/年)
		環境省指定先進的高効率機器一覧に定める設備以外の補助対象設備	26 (t-CO2/年)
		補助対象ではない設備	13 (t-CO2/年)

+

③	設備導入以外の排出削減取組による平成29年度のCO2排出削減目標量	5 (t-CO2/年)
---	-----------------------------------	-------------

※①=②+③とする。

<補足説明記入欄>

<p>「②設備導入による平成29年度CO2排出削減目標量」について、算定内容の具体を記述すること。 (設備効率の向上、設備の想定使用方法等、算定の根拠を記述。)</p> <p><従前のエアコン設備(8台)からのCO2排出量> ・暖房 COP=3.2、年間暖房需要=約36.2万kWhより 年間CO2排出量=36.2万kWh×0.000487t-CO2/kWh=176t-CO2 ※1台あたり22t-CO2 ・冷房 COP=2.8、年間冷房需要=約48.8万kWhより 年間CO2排出量=48.8万kWh×0.000487t-CO2/kWh=238t-CO2 ※1台あたり30t-CO2 <今回導入するエアコンからのCO2排出量> (算定式)年間CO2排出量=1台あたり年間CO2排出量×(COP(導入前)/COP(導入後))×導入台数 ○高効率パッケージエアコン① ・暖房:COP=4.3より 22t-CO2×(3.2/4.3)×5台=82t-CO2 ・冷房:COP=3.7より 30t-CO2×(2.8/3.7)×5台=114t-CO2 ○高効率パッケージエアコン② ・暖房:COP=4.5より 22t-CO2×(3.2/4.5)×3台=47t-CO2 ・冷房:COP=3.9より 30t-CO2×(2.8/3.9)×3台=65t-CO2</p> <p>【削減目標量】=【従前のエアコン設備からのCO2排出量】-【今回導入するエアコンからのCO2排出量】 =(176+238)-((82+114)+(47+65)) =106 (以下、本記入例では省略)</p> <p>削減目標量の算定過程の詳細を記述する。 記入欄が足りない時は「別紙のとおり」とし、別紙に記述する。</p>

<p>「③設備導入以外の排出削減取組による平成29年度のCO2排出削減目標量」について、 主要因を記述すること。 (補助対象設備以外による排出削減努力、エネルギー使用設備の廃止、利用時間の短縮等、 想定される要因について、要因ごとに可能な限り定量的に記述。)</p> <p>・事業場における省エネ努力(PCの省エネモード設定、3階以上の移動はエレベーターを利用する): 5t-CO2</p>
